

Q1-3. 産科DICとはどんな病気ですか？

DICとは、Disseminated intravascular coagulation を略した呼び名で、播種性血管内凝固症候群と訳します。英語も日本語も、長たらくて堅苦しい名前のため、臨床の現場では簡単にDIC（ディアイシー）と言います。

血液は、血管内を流れているときには絶対に固まらないように制御され、酸素を含めさまざまな物質を体内全体へ運搬し、様々な働きによって体全体を守ってくれています。また、日常経験することですが、切り傷を負ったりして出血すると、血管から一旦外に出た血液は即座に固まり始め（血餅・血栓）、切り傷からの出血を止める作用（止血）も持っています。

その重要な二つの作用が逆転した状態がDICです。何らかの原因によって、体内の多くの細い血管内で血液が凝固し始めると、脳や肺、腎臓などの生命維持に必要な臓器に障害が出始めます。さらに血液を固めるために必要な物質が大量に消費されていくと、続いて血管外で固めなくてはならないのに凝固物質が不足して固まらなくなり、最後は出血によって生命を奪われてしまう事になります。その原因を急いで取り除き、体外からは凝固因子を補充したり、輸血したり、ありとあらゆる集学的治療が行われます。

特に周産期（産科）領域では、妊娠子宮からの急激な大量出血が起こると、続いて循環血液量の不足、さらに循環不全による臓器障害へと負の連鎖反応を瞬時に引き起こしていきます。しかも突然起こることから、検査結果などを待つ余裕も無いことがあります。産婦人科医が携えている産科DICスコアを用いた診断法が、推奨される理由の一つです。なお、産科DICスコアについては、この学会ホームページ内の「産科DICスコア」(<http://www.jsoghn.jp/dic/>) もご覧ください。

原因疾患として多いのが、常位胎盤早期剥離、羊水塞栓症、分娩時（後）大量出血などです。常位胎盤早期剥離は産科DICの約半分を占め、さらに母児共に死亡率も高いため、現代でも最も恐れられているものの一つです。羊水塞栓症は、さらに致死率が高く、その診断精度の向上が求められています。これらについては、別項をお読みください。

難治性ゆえに、産科DICこそ、可能な限り不可逆的な病態に陥る前に診断し、有効かつ適切な治療を早期に開始することが必要です。

（前田 眞）